1　株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ

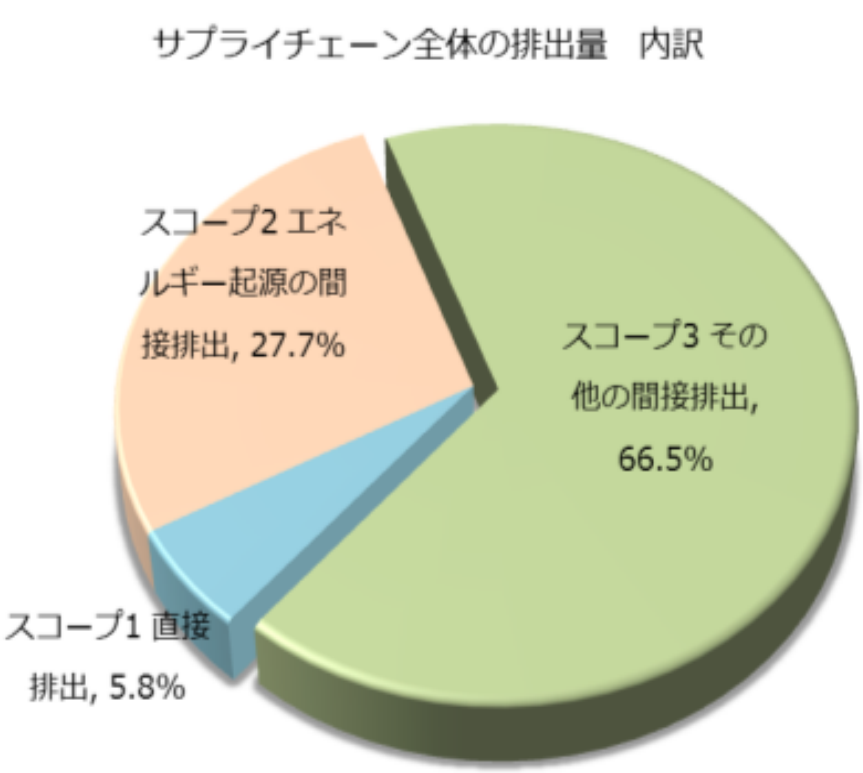
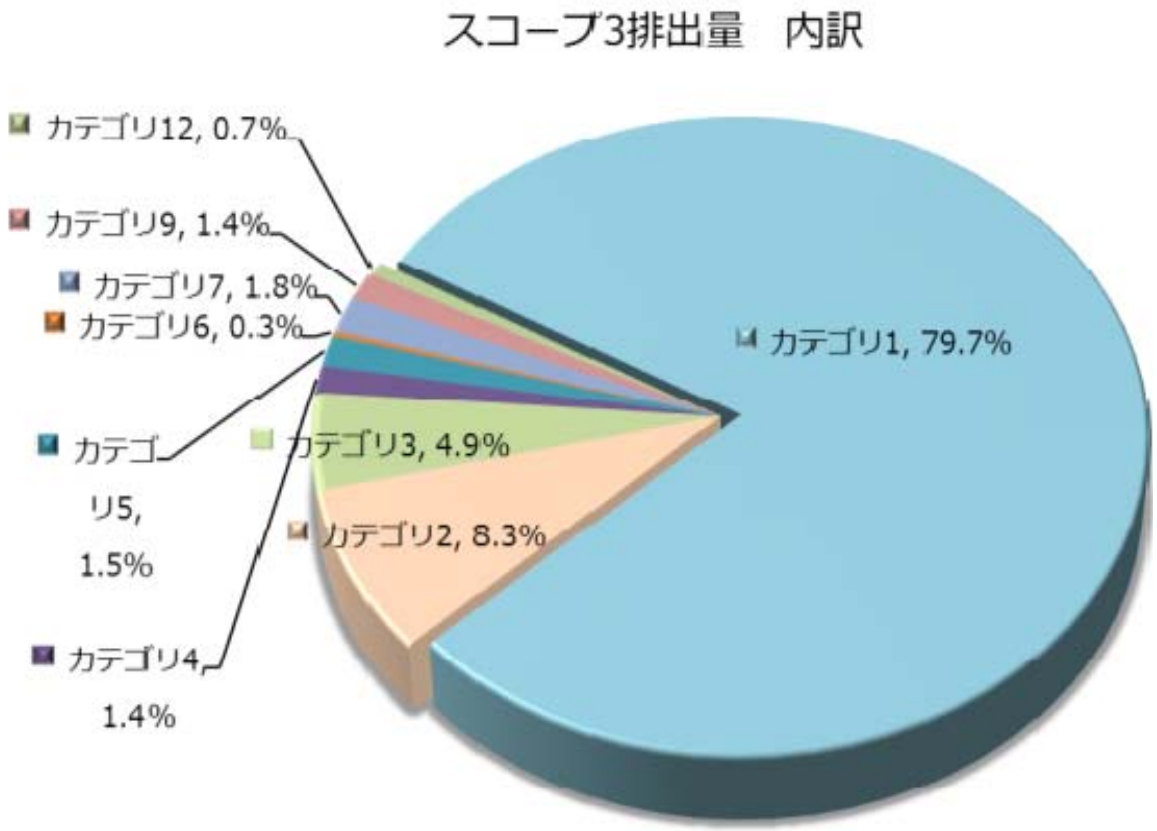
	各社の考え方
□算定を行う背景・目的	● サプライチェーン全体のCO2排出量とその割合及び排出量の多いカテゴリーを把握し、今後のCO2排出量削減と環境負荷の低減、事業の効率化に向けた効果的な施策立案の参考とする。
□算定結果の活用方法	● サプライチェーン全体での改善余地の把握と働きかけの根拠とする。 ● 導入した省エネ設備等の費用対効果を確認し、次期の開発に活かす。 ● CSRレポート等で、算定結果と継続的推移を記載し対外的に報告をしていく。 ● ステークホルダーからの問い合わせや、環境関連アンケートへの回答資料として活用。
□算定のメリット	● CO2排出量をカテゴリー別に把握することにより、取り組みの優先順位決定に役立てることが可能となる。 ● サプライチェーン全体のCO2排出量を把握している企業として、環境への取り組み姿勢を示すことができる。 ● ステークホルダーからの信頼性向上。
□社内の算定体制	● 社内横断的組織である環境部会事務局と関連部署（店舗開発部、購買物流部、業務部、人事部等）で連携しデータ情報収集、算定をしている。

2　株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ

	各社の考え方
□サプライチェーン排出量の削減に向けて	● 店舗網、物流量に合わせた拠点及び配送ルート見直しによるCO2排出削減。 ● バックスペースも含めた照明のLED化、省電力機器（厨房設備、空調設備）への切り換え、節水機器の導入など、環境負荷低減の設備投資を推進。 ● カテゴリ1の割合が、CO2排出量全体の5割以上、スコープ3においては約8割を占め、大きな排出量となっている。当社では環境方針において「事業活動の中で、省エネルギー、環境汚染の予防に努めることで企業の責任を果たす」としており、今後も事業活動が主となるカテゴリ1について、設備、運用両面の取り組みを推進する。 ● また、今後サプライチェーンのCO2排出量について、継続的に推移を確認することで、排出量削減のホットポイントを把握し、より効果的な取り組みを検討していく。
□サプライチェーン排出量算定の課題	● 算定対象が多岐に渡り広範囲なため、関連各部署の情報収集と算定にかかる負担が課題としてあり、取引企業含めた継続的なデータ収集の仕組み作りが必要。 ● 事業規模との相関関係を明確にするため、原単位での排出量把握に努め、政策的にデカップリングを推進していかなければならない。
□その他（任意）	● CO2排出量算定の適切性担保のため第三者検証を取得している。 ● 基幹ブランド「デニーズ」において外食事業初のエコマーク認定を受け、これを社内外の環境意識啓発に活かすことで、省エネ活動の実効性を高めていく。 ● 今回、サプライチェーン全体の排出量把握にあたり、事業の特性上該当または発生しない、カテゴリ8、10、11、13、14、15を除く9カテゴリーについて算定した。

3　株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品/サービス」	商品カテゴリー別売上高	金額当たり排出原単位（t-co2/百万円）
カテゴリ2「資本財」	設備投資金額	資本財当たり排出原単位（t-CO2/百万円）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	エネルギー使用量	エネルギー量当たり排出原単位（t-CO2/ｔ）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	輸送重量×輸送距離	輸送重量×輸送距離当たり原単位（t-CO2/千tkm）
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	廃棄物種類別排出量	廃棄物種類別原単位（t-CO2/t）
カテゴリ6「出張」	出張費支給額	出張費当たり排出原単位（t-CO2/千円）
カテゴリ7「雇用者の通勤」	交通費支給額	交通費支給額当たり排出原単位（t-CO2/千円）
カテゴリ8「リース資産（上流）」	該当なし	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	輸送重量×輸送距離	輸送重量×輸送距離当たり原単位（t-CO2/千tkm）
カテゴリ10「販売した製品の加工」	該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	該当なし	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	廃棄物排出量（販売金額より推計）	廃棄物排出量当たり排出原単位（t-CO2/t）
カテゴリ13「リース資産（下流）」	テナントのエネルギー使用量	エネルギー量当たり排出原単位（t-CO2/千kwh）
カテゴリ14「フランチャイズ」	該当なし	
カテゴリ15「投資」	該当なし	
「その他」		

4　株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ

算定結果